

[成果情報名] 水稻粉剤の飛散におけるナスに対する農薬残留について

[要約] 水稻登録薬剤のブラシン粉剤 DL がナスに対して最大量飛散した場合、3日後までは一定濃度残留する。

[キーワード] ナス、農薬残留、水稻粉剤、飛散

[担当] 総合農林試験場・環境部・流通加工科

[連絡先] 電話（代表）0957-26-3330（直通）0957-26-4417

[区分] 野菜、農産(流通加工)

[分類] 指導

[背景・ねらい]

現在、長崎県の一部の地域では、露地の夏秋ナス圃場と水田が隣接している。水稻における登録農薬のほとんどがナスに登録がなく、特にブラシン粉剤は収穫前使用期間が長く、飛散した場合、残留が懸念される。

一方、夏秋ナスは露地栽培されており、収穫期間に飛散を受ける可能性が高い。粉剤飛散における残留データは少なく、飛散時の対策を立てることは困難である。

このため、水稻の基準散布量である 4kg/10a が最大量飛散した場合を想定し、ナスに対する農薬残留量を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 水稻粉剤のブラシン粉剤 DL がナスに飛散した場合、散布後 3 日目までは基準値を上回っている。（表 2、図 1）
2. 果実に付着すると、残留する可能性が高い。（表 2）

[成果の活用面・留意点]

1. 露地作物で水田に隣接する圃場では、緩衝地帯、遮蔽物を設置する。
2. 農薬の散布にあたっては、散布する農家と隣接する圃場の農家同士が情報（散布日、散布薬剤等）を共有する。
3. 水稻粉剤の散布は、強風時の散布を避け、散布に際しても細心の注意を払う。
4. 今回の分析結果は、本試験に限定されるものであり、現地では地形、飛散条件等が異なるため、飛散量は特定できない。このため、飛散量が少ない場合や、果実に付着した農薬が一定期間経過する場合であれば、出荷できるということを保証するものではない。
5. ナスにおけるフサライド（ブラシン粉剤の農薬成分）の残留農薬基準値は 0.01ppm（暫定基準値の適用）である。

[具体的データ]

表1 試験条件

栽培概要	ビニールを全開したハウスで実施。試験期間中(8月6～8月27日)は、降雨等の気象の影響を防ぐため、上面をビニールで覆い、サイドは開放した。
試験薬剤	ブラシン粉剤DL(有効成分量:フサライド1.5%、フェリムゾン 2.0%)
散布量	4kg/10a(水稲散布時の基準散布量)
散布法	ミゼットダスターを使用し、地上1mの高さから畝の一方より散布
分析法	試料20g アセトン抽出 多孔性ケイソウ土カラム シリカゲルミカラム アセトン1ml 定容 ガスクログラフ質量分析計20 μl注入し定量
散布(飛散)日	平成19年8月6日

表2 ナスにブラシン粉剤が飛散した場合のフサライド残留値

試料 (品種等)	被験物質の 使用濃度	採取時期 (散布後日 数)	散布時の 生育ステージ	採取時の 大きさ(cm)	平均値(ppm)
ナス 品種 「黒船」	4kg/10a	無処理	収穫期	21.2	< 0.005
		直後	収穫期	15.6	0.2 >
		1日後	収穫期	17.4	0.128
		3日後	果実肥大期 (10.5cm)	19.8	0.026
		7日後	結実期	16.3	< 0.005
		21日後	着蕾期	22.3	< 0.005

注1)フサライドのナス基準値は、0.01ppm

注2)地形、飛散条件が異なると、残留値は変わってくるので、飛散が少量であった場合や果実に付着した農薬が一定期間経過した場合でも出荷できることを保証するものではない。

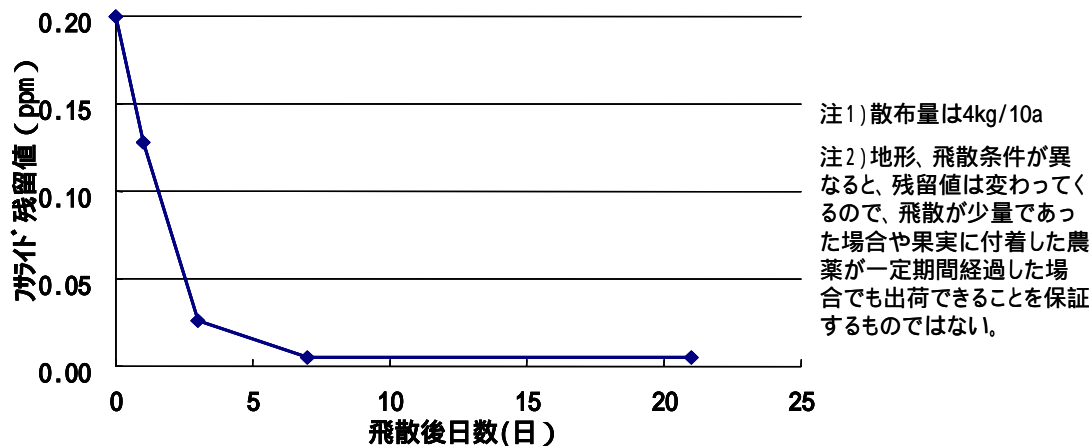


図1 ナスにブラシン粉剤が飛散した場合のフサライドの減衰傾向

[その他]

研究課題名: ポジティブリスト緊急対策事業

予算区分: 県単

研究期間: 2007年度

研究担当者: 江里口 正晴・船場 貢・濱邊 薫(総合農林試験場)、村木 満宏(農産園芸課技術普及班)、

大山 知泰・清水 マスヨ(病害虫防除所)